

第2部

『備前松田氏の足跡を訪ねて』

講師：大村祐章氏(玉松会 副会長)

《講師の系図・プロフィール》

- 岡山県岡山市北区在住
- 玉松会の事務局長を、創設期から引き継ぎ、現在は副会長を務める
- 松田氏中興の祖、8代松田元成に仕えた重臣大村盛恒の末裔にあたる(なお、元成と大村出雲盛恒の墓石は岡山県の指定文化財となっている)
- 末裔の人々の中には国務大臣等を歴任された人もいますが、戦前(1938年)には神奈川県知事も務めている

全国松田サミット in 松田町

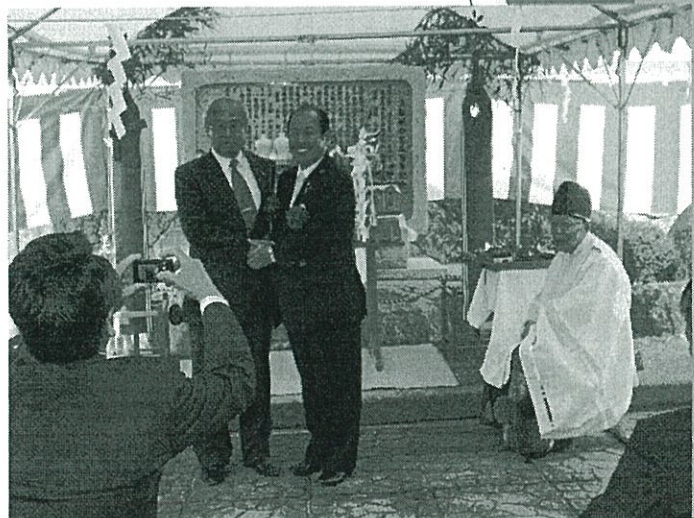
備前松田氏の足跡（玉松会）

2017年2月25日

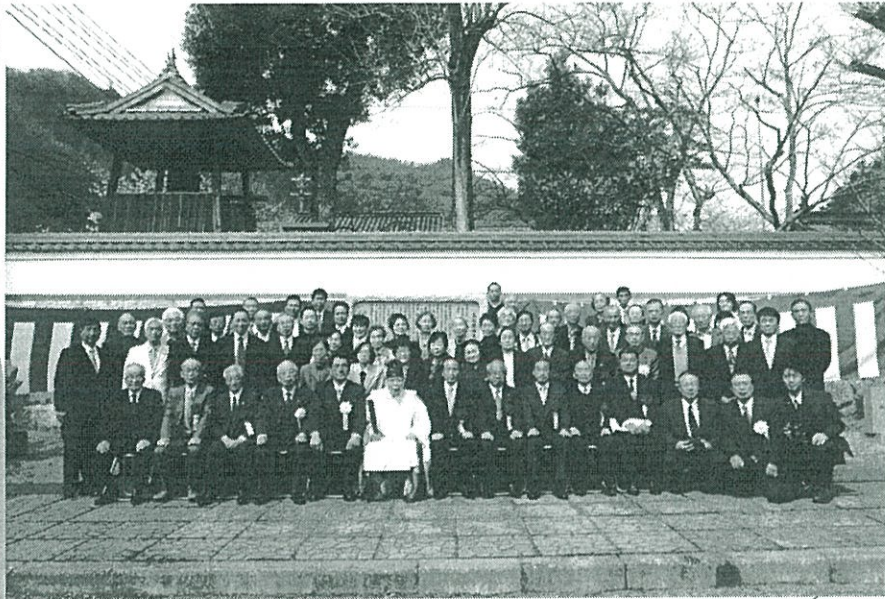
玉松会副会長 大村祐章

話題提供

- ▶ 玉松城命名500年記念（平成21年4月5日）、島村松田町長ご来席に感謝
- ▶ 相模松田氏の備前入り？
- ▶ 玉松会について
- ▶ 備前松田氏の足跡案内
- ▶ 備前松田氏の系統
- ▶ 備前松田氏の偉業と遺跡
- ▶ 備前法華の布教、禁教、解禁
- ▶ 玉松城落城後の松田氏の動向



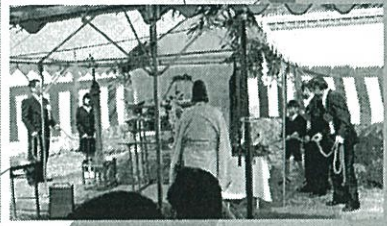
玉松城命名500記念碑除幕 2009年4月5日



三条重実 1501
9代城主元勝

内大臣、近衛家、一条毛
に次ぐ大3階層

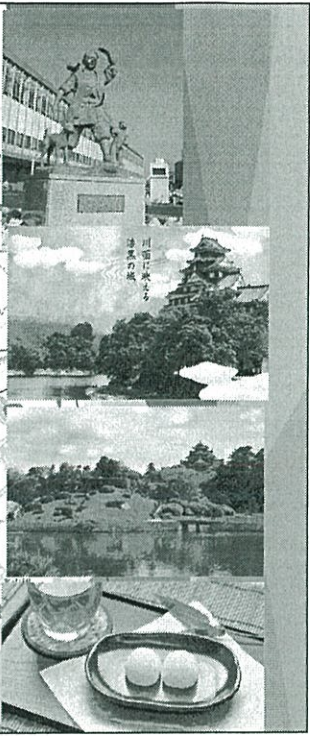
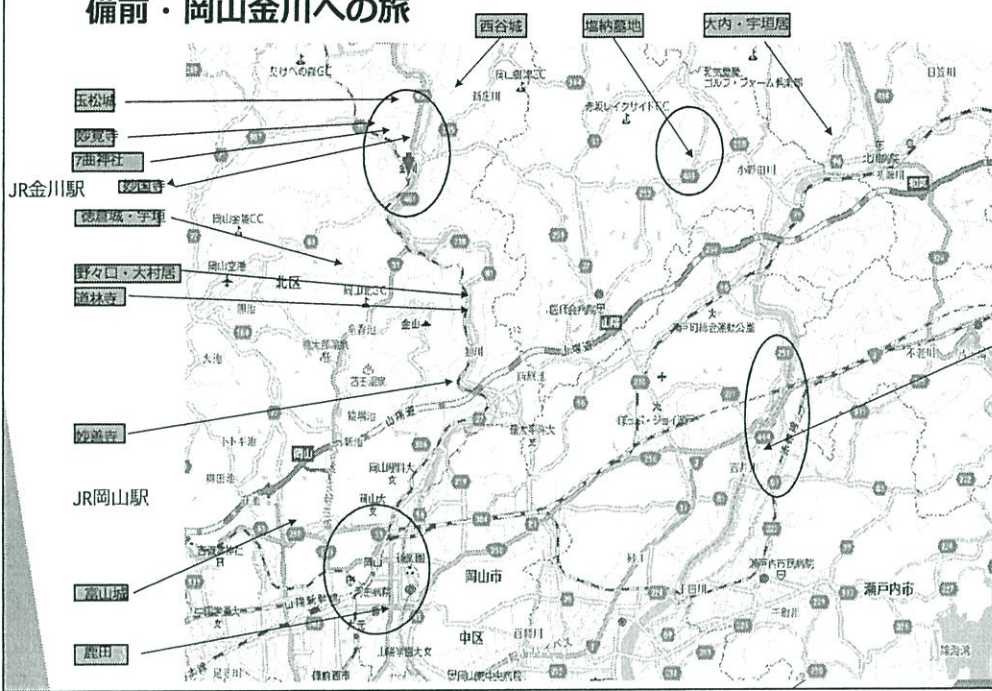
麗水、玉松



話題提供 備前松田氏の足跡案内

- ▶ 岡山・金川への旅 玉松城址、七曲神社、妙覚寺
- ▶ 玉松会発足と50年の歩み
- ▶ 相模松田氏の備前入り？
- ▶ 備前松田氏の系統
- ▶ 備前松田氏の遺跡
- ▶ 備前法華の布教、禁教、解禁
- ▶ 玉松城落城後の松田主従の動向

備前・岡山金川への旅

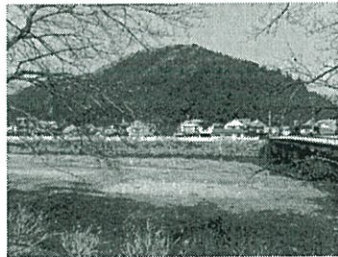


岡山から金川へ



JR岡山駅

津山線30分



金川市内より臥竜山を望む



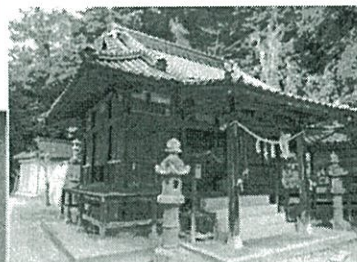
①金川妙覚寺



登山道



JR津山線金川駅



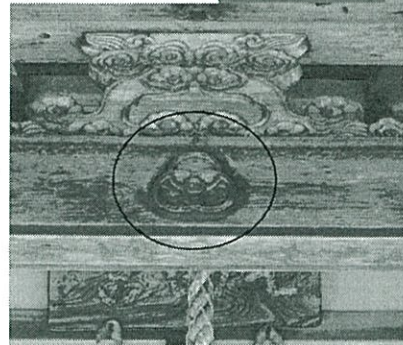
②七曲神社



③玉松城跡に松田主従供養塔



七曲神社



松田氏定
輪違い

御津町指定重要文化財 七曲神社 三十六武仙図(現地案内板)
七曲神社は松田氏の氏神として、神奈川県七曲山から金川に勧請(カンジョウ)された。江戸時代・岡山城主・池田氏家老・日置氏へキも尊崇。
三十六武仙図は、日置忠明が武運長久を願って、寛文13(1673)年に奉納。古代の吉備津彦命から室町時代の足利義満まで三十六人の武將。
毎年10月20日獅子舞

御津町文化財保護委員

三十六武仙図
七曲神社は松田氏の氏神として、七曲山(二宮山)から金川に勧請された。江戸時代、岡山城主・池田氏家老・日置氏へキも尊崇。三十六武仙図は、日置忠明が武運長久を願って、寛文13(1673)年に奉納。古代の吉備津彦命から室町時代の足利義満まで三十六人の武將。毎年10月20日獅子舞。



金川妙覚寺 日蓮宗不受不施派の祖山



- 1882年(明治15年)日蓮宗不受不施派の日正は江戸時代後期の医師難波抱節の宅跡、妙覚寺を建立。
- 2003年(平成15年)火災、一部が焼失。再建。



日生上人御曼荼羅



備前の幕末名医 難波抱節1791年~1859年
全身麻酔による乳がん手術、種痘

玉松会発足とその後50年のあゆみ

- ▶ 板津謙六先生らの金川町史発刊（昭和32年）を契機に、玉松城ゆかり一族を集め、100年猶予絶えていた祖先供養する機運が高まる。
- ▶ 御津町文化財保護委員会が中核となって玉松城落城400年祭が計画。
- ▶ 昭和39年5月9日金川妙覚寺で法要。玉松城本丸に立つ。
- ▶ 岡山大学・藤井駿先生、金川高校・板津謙六先生の講演、始めて知る祖先の歴史、偉業に感銘。七曲神社参拝、獅子舞を奉納。松田元成、大村出雲の墓地参拝。
- ▶ 昭和41年4月5日本丸跡に供養塔と記念碑を建立。55名の浄財。玉松会発足。
- ▶ 初代会長・松田友良。副会長・大村襄治と宇垣松四郎。事務局長・大村寛と安藤長象。五輪塔と石燈籠一對の建立は、二頭の馬、十人で本丸跡まで運び（登山道となる）。
- ▶ 由緒ある家名を尊び、祖先を啓蒙、一族助け合い国家社会のために尽す。その心を子孫に伝え、徳を積み、和を以って一族の益々の発展を祈念（玉松会会則）。
- ▶ 第2代会長・松田忠義氏。
- ▶ 3代会長・松田幸一、副会長・大村襄治留任、2代副会長・宇垣公晟（まさあき）、2代事務局長・大村祐章。
- ▶ 4代会長・松田充弘、2代副会長・大村祐章、3代副会長宇垣、3代事務局・大村暉、大村章方

玉松城落城400年祭



昭和39年5月9日玉松城落城400年



三宅克広先生「中世の備前松田氏」

備前松田氏の証

- ▶ 松田滅亡後、松田に纏わる一切の遺跡は宇喜多らによって全て崩壊。しかし、残された若干の遺跡、古文書及び御曼荼羅をもとに、当時を検証。
- ▶ 松田系図は、寛政年間、野々口村大庄屋・大村官右衛門房重が作成。本系図には正確な事が判らないので、後世に修正を要請する等・付記。
- ▶ 日蓮宗不受不布施の御本尊は御曼荼羅。高僧からの授与を家宝しており、禁教の下でも温存。松田孫次郎藤原元藤法名皓月9代京都妙覚寺・日寮授与、文明12年8月。系図では元勝→御曼荼羅では元藤。
松田左近将監元隆/10代京都妙覚寺・日賞からの授与。系図では元隆→御曼荼羅では元陸
備前国大村入道延世/日現からの授与、永禄3年
横井土佐守氏家法名道慶/日現から授与、永禄3年→戸籍抄本
- ▶ 妙国院にある元成300年忌（寛政10年1798年）に建立した供養塔には、松田12代の戒名。
- ▶ 道林寺の松田氏位牌には、松田氏13代の戒名
- ▶ 天保13年2月2日（1842）松田元成、弟元貞と大村出雲の350年忌供養塔には詳細に記載。
備前、美作、阿波、讃岐に現存する松田家の分派の後裔（華光院嫡裔讃州三野郡詫間、香川郡鶴市。現光院嫡裔新庄、岡山、作州中須賀、御野郡北方）及び旧臣下の野々口・大村出雲、菅・樽村修理、宇垣市郎兵衛、横山多仲、津島木口、宇野珍嘉、藤田掃部介、佐藤式部、藤田大炊介、藤田駿河、藤田民部大輔の子孫、藤四郎元茂、七兵衛元福、嘉平太元珍、惣右衛門元辰、道三郎元敏ら270名が参集。
- ▶ 400年遠忌記念碑を備前新庄西谷元貞城址に建設。

備前松田氏の証

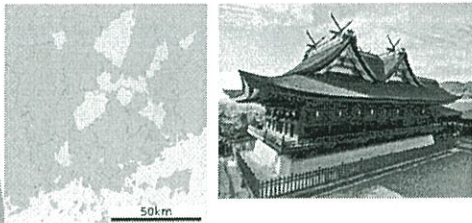
- ▶ 松田滅亡後、松田に纏わる一切の遺跡は宇喜多らによって全て崩壊。しかし、残された若干の遺跡、古文書及び御曼荼羅をもとに、当時を検証。
- ▶ 松田系図は、寛永年間、野々口村大庄屋・大村官右衛門が作成。本系図には正確な事が判らないので、後世に修正を要請する等・付記。
- ▶ 日蓮宗不受不施の御本尊は御曼荼羅。高層からの授与を家宝しており、禁教の下でも温存？
松田孫次郎藤原元藤法名皓月 9代京都妙覚寺・日寮授与、文明16年8月。系図では元勝→御曼荼羅では元藤。
松田左近将監元隆/10代京都妙覚寺・日賞からの授与。系図では元隆→御曼荼羅では元陸
備前国大村入道延世/日現からの授与、永禄3年
横井土佐守氏家法名道慶/日現から授与、永禄3年→戸籍抄本？
- ▶ 妙国院にある元成300年忌（寛政10年1798年）に建立した供養塔には、松田13代の戒名。
- ▶ 道林寺の松田氏位牌には、松田氏13代の戒名
- ▶ 天保13年2月2日(1842)松田元成、弟元貞と大村出雲の350年忌供養塔には詳細に記載。
備前、美作、阿波、讃岐に現存する松田家の分派の後裔（華光院嫡裔讃州三野郡詫間、香川郡鶴市。現光院嫡裔新庄、岡山、作州中須賀、御野郡北方）及び旧臣下の野々口・大村出雲、菅・
檜村修理、宇垣市郎兵衛、横山多仲、津島木口、宇野珍嘉、藤田掃部介、佐藤式部、藤田大炊介、藤田駿河、
藤田民部大輔の子孫、藤四郎元茂、七兵衛元福、嘉平太元珍、惣右衛門元辰、道三郎元敏ら270名が参集。
- ▶ 400年遠忌記念碑を備前新庄西谷元貞城址に建設。

中世（鎌倉、南北朝、室町）と松田氏

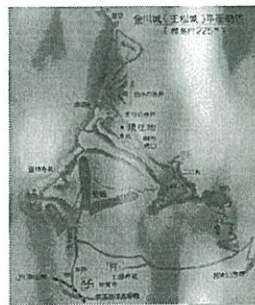
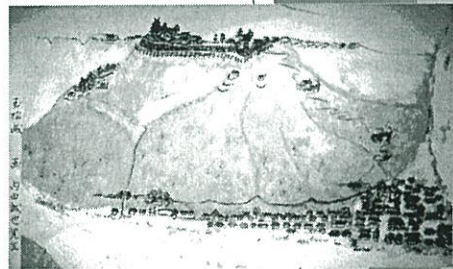
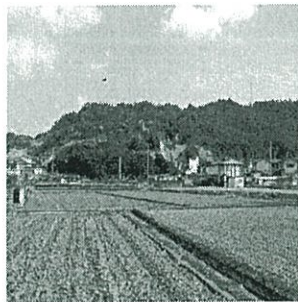
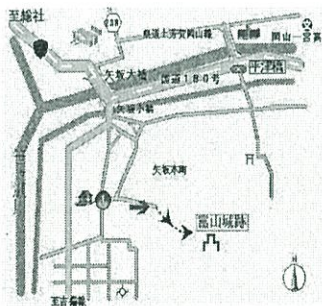
- ▶ 中世とは、鎌倉幕府の武家政権～室町幕府の滅亡：400年間
- ▶ 貴族政治→封建政治に移行
- ▶ 鎌倉時代は、今迄の荘園に、地頭職として関東武士が入り、歴史の地図が塗替る。
- ▶ 松田氏は、鎌倉時代の地頭職、建武の頃守護職。
- ▶ 応仁元年（1467）～文明4年（1472）松田遠江（トオトウミ）入道藤栄（ふじさき）と浦上六郎左衛門基景が備前守護代（難波文書）
- ▶ 戦国時代金川西備前4郡を分国支配。12代250年統治
- ▶ 松田家は足利幕府より細川氏との関係が強くなる。備前松田の「元」は細川氏満元、時元、勝元
- ▶ 備前は、山名教之の陣営。赤松氏は細川氏の与党となって備前回復に乗り出す。松田、鹿田、菅、難波族は赤松陣営につく。
- ▶ 八塔寺文書（1304年）：地頭職・松田三郎太郎盛経
- ▶ 金河光泰申状（1358年）：備前宇甘郷の惣社の神主：金河泰持（松田氏一統）
- ▶ 吉備津彦神社文書（1335年）：松田盛朝：備前守護職

室町時代の備前松田氏

- ▶ 吉備津神社本殿建立
- ▶ 棟札、南北朝最後、社務（吉備津神社のトップ）：松田備前守藤原吉信
- ▶ その息子・社務 松田三郎左衛門尉藤原満朝（1405年）
- ▶ その息子・社務 松田十郎藤原朝郷（1421年）
- ▶ 岡山県地域 備前・松田、備中・陶山と那須、美作・三浦、有本、
 備和（ハガ）



富山城から玉松城築城



金川臥龍山、玉松城

鎌倉時代中期、承久3年（1221年）頃築城。

松田氏は岡山平野に進出、富山城。

室町時代中期の文明年間（1469年-1486年）、応仁の乱の混乱期、松田元成は富山城より金川城。拡充。

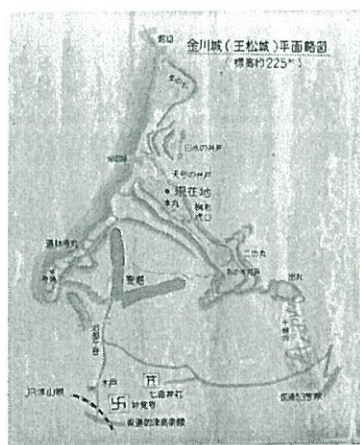
「西備前一の堅城」日蓮宗の信仰厚く日蓮宗の道場、道林寺を築く。

戦国時代の永禄11年（1568年）松田元賢・妻の父・宇喜多直家、家臣の伊賀久隆の謀反、落城。元賢と父・松田元輝、松田氏の重臣多数滅亡。

慶長5年（1600年）関ヶ原後小早川秀秋、廃城



玉松城（臥龍山 225m）

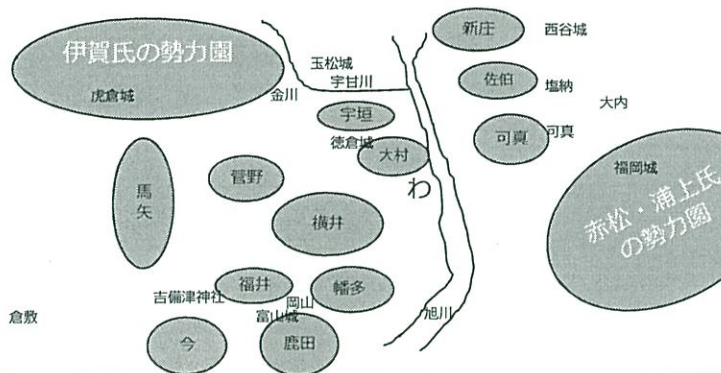


備前松田氏の諸家

備前松田は備前守護職では唯一奉公衆

- ▶ 三郎（備前守）家 本宗家 熊山・可真郷、佐伯
- ▶ 次郎（豊前守）家 鹿田家 岡山・鹿田
- ▶ 六郎（上野介）家 山口家 鳥取庄（山陽町）→小田原北条氏家臣
- ▶ 七郎家 岡山・菅野
- ▶ 左近将監(富後守)家・菅家 菅・金川松田氏 一宮、津高、馬矢郷、福岡合戦（赤松） 三野新庄

確認できる松田氏所領

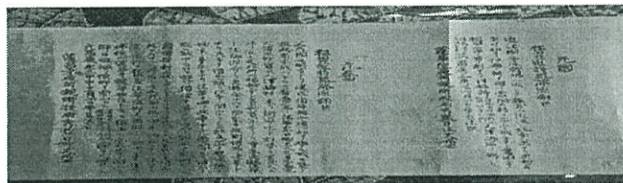
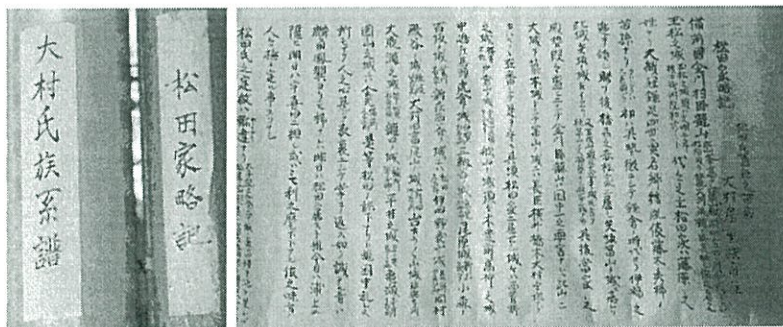


室町時代の備前勢力図

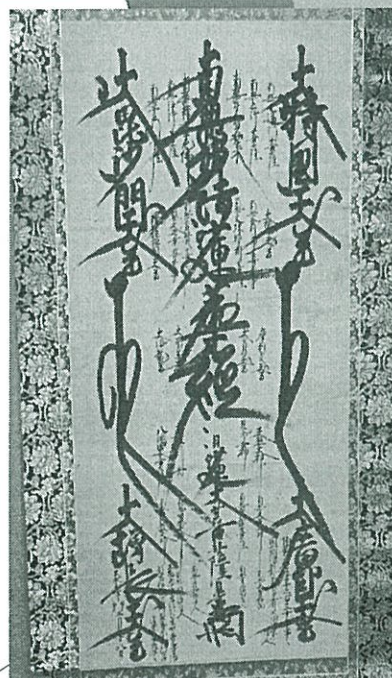


備前御家人の分布（出身地旧国名）

系図および御曼荼羅



松田家略記 寛政12年 大村官右衛門房重作成



松田左近将監藤原元陸授与 日賞

福岡合戦（松田・山名/赤松・浦上）

- ▶ 文明15年（1483～5）元成は、守護代・赤松政則方、浦上則国を攻める。軍勢1800を引き連れ金川を出発。吉井・境の山に布陣。松田孫四郎、佐藤式部、檜原、堤、小野田ら吉岡・千種山の陣取。山名俊豊が援軍、松田・山名の連合軍は、赤松の福岡城を陥し、更に浦上の三石城まで進軍。深追いが仇となり天王原で敗戦、次いで千種山でも敗戦。
- ▶ 松田には尼子と連合して赤松・浦上（備前東部）を制覇して備前統一目指したか？
- ▶ 松田元成は、塩納・山の池へ逃走。寺城・妙法山長光寺で自刃。大村出雲盛恒は、雲州尼子へ援軍。時すでに遅く、追腹（備前軍記）。
- ▶ 元成の息・元勝は、元成（無縫塔）と大村出雲（宝綬印塔）供養塔と立雲山大乗寺を建てる。
- ▶ 寛永6年（1666）池田光政の宗教弾圧によって2寺とも廃寺。光政は和意谷の池田家墓所へ詣でた時、山の池に立ち寄る（万波家文章）

元成出雲墓所及び周辺道路の改修



岡山県歴史資料館
松田元成・大村盛恒墓所
昭和34年3月27日調査

金川郷（岡山市北区御津町）に本拠を構えていた松田左近将監元成は、文明十五年（一四八三）末から文明十六年（一四八四）の初めに福岡城（瀬戸内市長瀬町）をめぐる攻防戦である福岡合戦で勝利を博したが、つづく天王原（瀬戸内市長瀬町）の戦いに敗れた。手負を負った松田元成は、東備前の拠点であった山の池まで引き上げたが、そこで力尽きて自刃した。（伝：文明十六年二月八日）

元成の部下である大村出雲盛恒は、雲州（高麗嶺）の尼子家へ援助を頼みにいき、帰ってみれば元成は自刃していたので追腹を切って殉じた。

この墓は、元勝（元成の子）が建てたと云われている。向かって右の無縫塔が元成の墓、左の家院印塔が盛恒の墓で室町時代の特色をよく表している。

岡山県教育委員会



備前出雲守松田左近将監元成の墓所
此の墓は、元勝（元成の子）が建てたと云われている。向かって右の無縫塔が元成の墓、左の家院印塔が盛恒の墓で室町時代の特色をよく表している。

松田左近将監元成
大村出雲盛恒

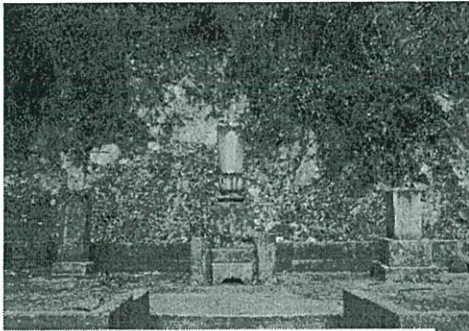
松田左近将監元成
大村出雲墓地略記

元成・出雲を偲ぶ500年忌法要 墓前祭

昭和57年4月4日



妙国院供養塔 寛政10年元成300年忌



寛政10年（1798）元成300年忌？

妙法松田氏代々城主大居士
松田左近将監藤原元成代々墓
妙法華光院殿妙国日昌大居士

妙国院(寛永6年廃寺) には3基供養塔
寛政10年（1798）無縫塔・妙法華光院殿妙国日昌大居士（元成300年忌）
また別の場所の5輪石には元和2年左門盛明供養塔？元泰500/元輝・元賢
300年忌？



慶応3年（1857）元泰300年元輝元賢300年忌？

松田元成、弟元貞と大村出雲の350年忌（新庄）

- ▶ 天保13年2月2日(1842)大村慎三郎らは松田吉衛門元重を祭主として松田元成、弟元貞と大村出雲の350年忌を挙げる。備前、美作、阿波、讃岐に現存する松田家の分派の後裔
- ▶ 華光院嫡裔讃州三野郡詫間 松田吉右衛門元重 松田藤四郎元茂 松田七衛門元福 松田嘉平太元珍 松田惣右衛門元辰 松田道三郎元敏。香川郡鶴市 松田清助成真。
- ▶ 現光院嫡裔新庄 松田六右衛門秀延 松田彦三郎秀盛 松田彦右衛門 松田幸重郎 松田金右衛門 松田歌太郎 松田竹次郎。岡山 松田八百吉秀歳。作州中須賀 松田幸兵衛。御野郡北方村 松田三郎元秀。
- ▶ 老臣野々口村 大村出雲の子孫。
- ▶ 菅村・楢村修理の子孫。
- ▶ 磐梨郡弥上村 若宮八幡祭 八波荒五郎霊
- ▶ 津高郡一の宮 小林久馬助の子孫（今）
- ▶ 横井又七郎、宇垣市郎兵衛の子孫（今）、横山多仲の子孫（今）、津島木口の子孫（今）、宇野珍嘉の子孫（今）、藤田掃部介、佐藤式部、藤田大炊介、藤田駿河守、藤田民部大輔、藤田三河守 藤田越中守、藤田又四郎、伊賀修理、大村弥五郎、藤田次郎、宮内備中守、藤田備前守。→藤田は鹿田姓の誤りか？
- ▶ 発起 松田六右衛門秀延。
- ▶ 270名が中山村臥龍山参集。400年遠忌記念碑を備前新庄西谷元貞城址に建設。百両を投ず（大村慎三郎が松田英右衛門宛の親書3通参考）。

新庄城墓参（元成・元貞）



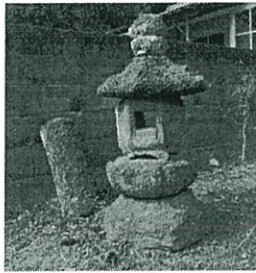
華光院殿妙日唱大居士
金川城主 松田左近将監藤原元成
現光院殿宗持日暲大居士
平岡郷新庄城主
弟松田彦次郎藤原元貞



平成2013年4月7日新庄墓参

元泰500遠忌、元輝・元賢300遠忌 慶応3年

- ▶ 慶応3年(1867)3代元泰(蓮光院)の500御忌、12代元輝(衆要院)/13代元賢(究意院)の300御忌が備前金川妙国院で挙行(案内状津山横野片山所蔵)。



- ▶ 明治維新までは松田主従の末裔が、7月7日夜、提灯の明かりをたよりに妙国院に集まり祖先の供養、不受不施派の再興によって公然と供養が出来るようになり、この集いは中止。

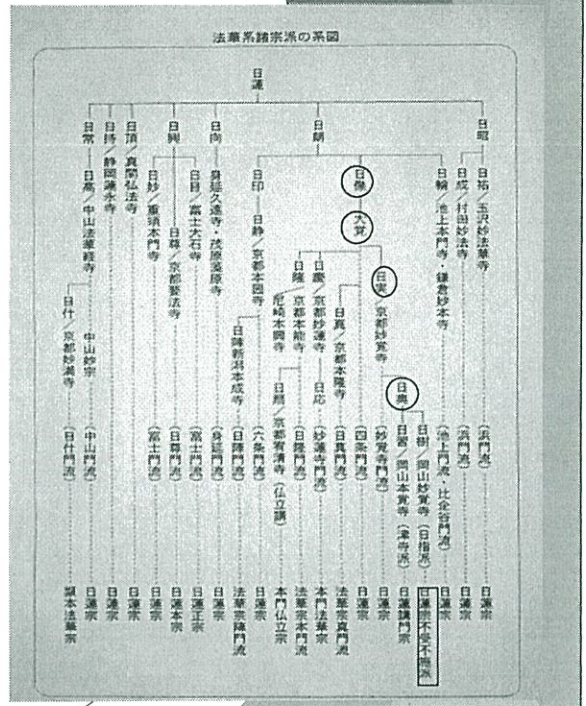
元成・出雲を偲ぶ500年忌法要

- ▶ 昭和56年4月5日松田元成、大村出雲500年祭実行委員会発足。実行委員長・松田幸一(第3代会長)、顧問・大村襄治と宇垣公尚、実行委員・大村祐章、安藤長象、二宮基泰、大村肇、松田充弘、松田松蔵、松田一仁、宇垣一衛、檜村栄一。
- ▶ 昭和57年4月4日(1968)松田元成、大村出雲をしのぶ500年忌法要。妙覚寺本堂読経、臥龍山供養塔参拝、新庄墓代参、総会、赤磐郡瀬戸町山の池・塩納供養塔・無縫塔(元成)宝綬印塔(出雲)に参拝、墓前祭、瀬戸町文化財保護専門委員・土井秋夫氏の講演。参列者120名。
- ▶ 500年祭事業として塩納墓地の整備、墓前参道の整備、一対の燈籠設置、植樹、玉松記念誌の発刊、寄付109名。御津町、瀬戸町、塩納山の池地区の方々にお世話になる。
- ▶ 会員は各地域発展のために尽力。大村襄治は内閣副官房長官、防衛大臣。土光敏夫は臨時行政調査会長。玉松会誌には会員のプロフィール掲載。
- ▶ 玉松会誌には、板津謙六先生及び土井秋夫先生の原稿を基盤に、玉松会会員からの松田家、大村家、宇垣家、檜村家に纏わる歴史感を掲載、出版。

松田氏の日蓮宗不受不施派布教



天文末年（1532～1555年室町幕府足利義晴）の備前勢力



松田氏の滅亡と日蓮宗不受不施派との関連

- ▶ 備前法華は松田氏（松田左近将監）布教。津高・金川に寺院を建立
2代元喬：蓮昌寺 5代元方：道林寺 7代元澄：妙善寺 8代元成：妙国寺—備前法華四大寺
- ▶ 法華宗の祖は日像（妙顕寺）、大覚大僧正、日実（妙覚派）、各地に石塔
- ▶ 松田氏は歴代日蓮宗に帰依。玉松落城前は読経唱名に没頭、改宗の命令（寺院焼き打ち）、領内の反発（日典→檜原三郎左衛門尉）、軍国の勢い衰え。
- ▶ 延世、宇垣、横井、橋本の老臣補佐と進言。宇喜多直家（赤松家臣、松田氏と婚姻・連携）は宇垣を弓矢で刺し、女婿の伊賀久隆が謀反、永禄11年7月5日、金川・玉松城を襲撃。
- ▶ 12代元輝、その子・元賢は戦死。元賢の弟・盛明は備中に逃れ、毛利に仕える。松田子孫は阿波・讃岐・備前・美作にも松田姓を称す。
- ▶ 日蓮宗不受不施派は文禄4年（1595）京都妙覚寺の日奥が、法華経信者以外からは施しを受けず、施しもしないと主張したことに始まる。松田氏は備前法華を布教。江戸時代はキリシタンと同様に禁教、池田光政は寺院を廃寺・妙国寺、妙善寺（寛永6年313寺院 1666）。禁教後内信を続け地下信仰。
- ▶ 明治9年（1876）公許を得る。岡山市御津金川（みづかながわ）の妙覚寺を本山とする。

玉松城落城後の松田主従の動向

- ▶ 松田盛明（12代元賢の弟、元輝&元賢討死）→備中→毛利元清・高松城水攻め参戦（中国兵乱記）→朝鮮出兵→関ヶ原敗軍→山城・詫間→詫間松田系図
- ▶ 松田元成の弟・元貞その子孫→浦上配下→新庄・岡山・岩手
- ▶ 松田備前三郎盛朝・備前守信重らその子孫→熊山可貞
- ▶ 松田左門・片山空之介久義→落合城主→松田屋落合
- ▶ 松田左近将監次子左衛門尉盛明→高松城水攻め参戦→井原長者が原
- ▶ 松田左近将監吉久・赤名絹掛山城→島根赤名
- ▶ 大村甚左衛門元盛、家盛→毛利・高松城水攻め参戦→朝鮮出陣→野々口庄屋、池田家仕える→野々口、岡山、津山、牟佐、建部、東京
- ▶ 宇垣市郎兵衛その子孫→大内
- ▶ 檜村修理その子孫→高津
- ▶ 横山土佐守その子孫→妹尾姓・倉敷



瀬戸山城番松田左近将監吉久墓

松田氏ゆかりの備前法華寺院

金川地区には日奥・不受不布施派妙覚寺、日蓮施講派の2本山

- ▶ 妙国院 8代玉松城主元成
- ▶ 道林寺 5代玉松城主元方
- ▶ 蓮昌寺 2代玉松城主元嵩
- ▶ 妙善寺
- ▶ 実成寺

- ▶ 身延山久遠寺 1253年日蓮宗祖の日蓮宗総本山
- ▶ 池上本門寺 1276年日蓮開祖の日蓮宗大本山
- ▶ 京都妙覚寺 1378年日実開祖の日蓮宗本山。1595年日奥千僧供養拒否
- ▶ 比企谷妙本寺 ヒキガヤツ
- ▶ 京都妙顕寺 1321年日像開祖、大覚大僧正輩出
- ▶ 金川妙覚寺 1882年日正開祖の日蓮宗不受不布施派祖山

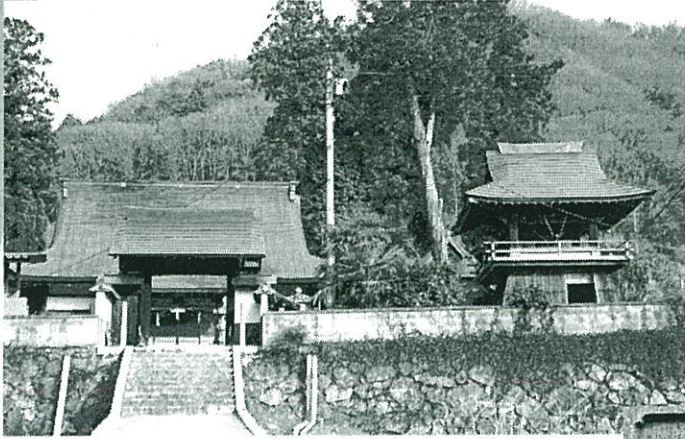


1332年元嵩蓮昌寺建立
日像御曼荼羅



妙善寺

臥龍山道林寺(妙見さん)



備前中山道林寺略縁
元禄元年[1688] 道林寺21伝燈桑門 覚船院日栄



臥龍山道林寺
大村宮右衛門房重板碑



仁王像について
仁王像は、延暦寺の仁王門に安置され、その守護神として知られる。臥龍山道林寺にも、元禄元年(1688)に、日栄覚船院の21伝燈桑門によって、仁王像が安置された。この仁王像は、大村宮右衛門房重の板碑に刻まれた。板碑の文は、大村宮右衛門房重の功徳を記述している。仁王像は、大村宮右衛門房重の功徳を記述している。仁王像は、大村宮右衛門房重の功徳を記述している。

実成寺跡、延世供養塔



実成寺開基日養
慈父宋久尊位
慈母妙久尊尼
關塔 日興

実成寺跡
可成定安堂 実成寺跡
実成寺は、大永年間(五三二-五三七)日養により、臥龍山に開基と伝えられ、いつの頃からか、妙久に移転。享禄元年(五三〇)百尾に生まれ、日興が、九歳で実成寺日興に入門し、出家した。日興は永禄九年(五五九)京都妙見寺の二十世住主となった。二十一世住主日興の孫子である。寛文六年(一六六六)備前藩主池田光政による寺社整理にともなわれ、寺運衰え元禄三年(一六八六)寺跡は現地町奉行へ移転した。石塔高野

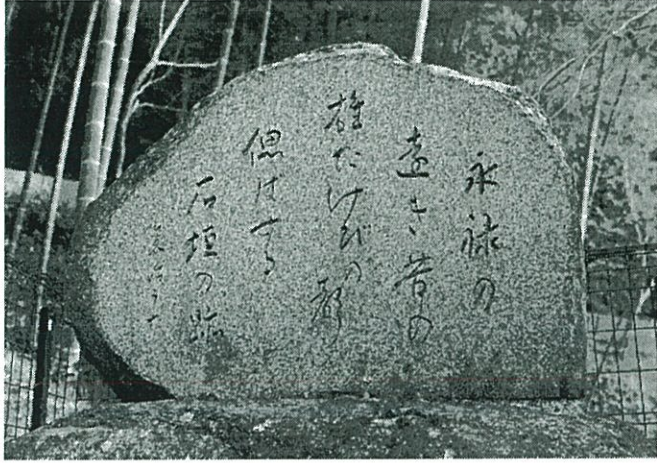
一 日養堂 三基 (五三二)
二 妙久尊位 天正十七年(五四八)
三 妙久尊尼 永禄三年 (五三〇)
四 日興立 天正年間 立 准定 (五五九)
五 日興立 天正年間 立 准定 (五五九)
六 日興立 天正年間 立 准定 (五五九)

(日興寺基のいる石塔あり)
備前町教育委員会



延世之内室妙延建立
父徳源・母妙日供養塔

大村襄治先生の歌碑



永祿の遠き昔の雄たけびの聲偲はする石垣の跡

歌碑

玉松城城主松田元成と家老大村出雲の五百年忌法要が昭和五十七年四月祖山妙覚寺において、しめやかに挙行された。この歌碑は五百年記念事業の一環として建立されたものである。歌は玉松会会員衆議院議員(元防衛庁長官)大村襄治氏が遙か昔の玉松城をしのんで詠んだものである。

平成二十五年八月改裝
玉松会



玉松会今後の課題

- ▶ 昭和38年秋、御津町文化財保護委員会、教育委員会、板津謙六先生、妙覚寺日学聖人らの発案で、各地に在住する松田氏の末裔に声を掛け、金川に集結。儀式は祖山の大法要。
- ▶ 玉松城ゆかりの松田、大村、宇垣、檜村、横井らは、合同で祖先を供養する玉松会発足。発足当時の人脈は高齢化。出席者は減少。
- ▶ 世代交代の波に即した、魅力ある玉松会に変革。若い世代の方を同伴、気軽に参加できる玉松会に改革。
- ▶ 会員の拡充は、300年忌、400年忌、500年忌を参考に当時の玉松城ゆかりの方を一堂に会するべく積極的に呼び掛る。
- ▶ 祖先の鎮魂と供養を旨し、若い世代に対して継続的な交流の場となるように継承。
- ▶ 玉松会の一層発展を祈念。

ご聴講ありがとうございました。

相模松田町の益々の発展と皆様とご健勝を祈念申し上げます。

引用文献とご指導頂いた先生

- ▶ 御津郡誌全 昭和47年10月21日 御津郡教育会
- ▶ 金川町史 昭和32年3月30日 板津謙六
- ▶ 御津町史 昭和60年3月25日 御津町史編纂委員会
- ▶ 7曲神社と金川 昭和57年5月1日 板津謙六
- ▶ 玉松 松田元成、大村出雲500年祭記念 昭和58年11月1日 編集委員
- ▶ 新釈備前軍記 昭和61年10月15日 柴田 一
- ▶ 蓮昌寺史 平成14年3月31日 八木太慈
- ▶ 中世の備前松田氏について 三宅克広
- ▶ 玉松 玉松城命名500年記念 平成22年4月1日 内田誠也
- ▶ 道林寺略縁記（道林寺21代覚船院日栄） 口語訳 内田誠也
- ▶ 松田家系図（大村禎左衛門尉盛隆 寛政12年 1800） 口語訳 内田誠也

- ▶ 板津謙六 郷土歴史家 金川高校教諭
- ▶ 内田誠也 郷土歴史家 金川高校教諭
- ▶ 板津定邦 郷土歴史家 金川高校教諭
- ▶ 三宅克広 岡山県教育庁文化財課 岡山博物館 学芸員
- ▶ 榎原雅治 東京大学史料編纂所 教授
- ▶ 前田右勝 横浜郷土歴史家